分科会 18

医療の場にリカバリーへの希望はあるのか？　～当事者からのエール～

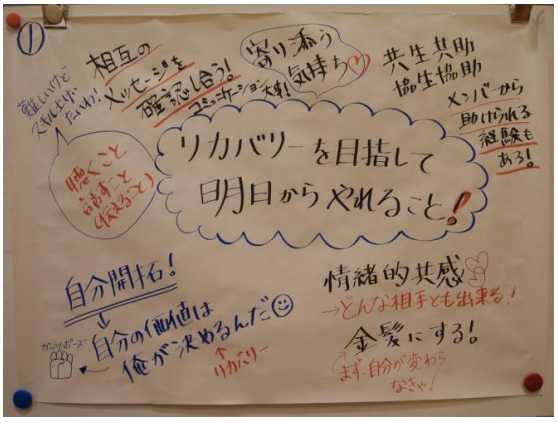
出演者：佐々木理恵（ＷＲＡＰファシリテーター）、和田公一（横浜市旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと　ピアスタッフ）、
塩田由美子（はらからの家福祉会　ライフパートナー）
進　行：相澤和美（地域精神看護ケアねっと／国際医療福祉大学）、大橋秀行（NPO 法人 POTA／埼玉県立大学）、
川口敬之（NPO 法人 POTA／北里大学）
協力者（グループワーク・ファシリテーター）：松井洋子（さいとうクリニック）、原田尚子（上智大学）、
渋谷隆幸（北里大学東病院）、安増栄恵（横浜市総合保健医療センター）、明谷大毅（横浜舞岡病院）、平井直人（根岸病院）、
吉川徹（曽我病院）、 松岡太一（福井記念病院）、川村弘子（訪問看護ステーションみなのつばさ）

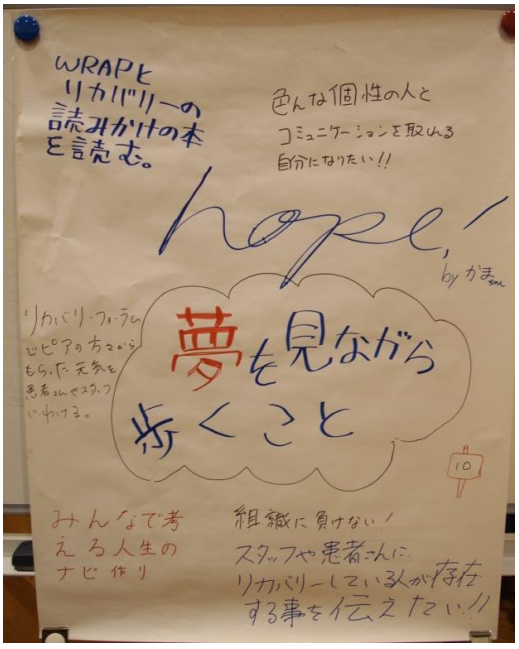
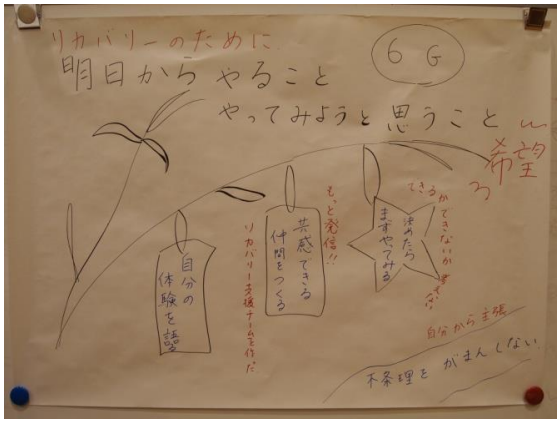
■医療の場は、リカバリー志向が育ちにくい環境ですが、日常の関わりの中にリカバリー志向への希望はあるのではないかといった観点から、出演者から体験を語ってもらいエールをいただきました。

それを受けて、86 名の参加者（当事者、家族、支援者など）＋9 名（協力者）＝95 名が 10 グループに分かれて、「リカバリー志向を目指して、当事者と専門職が明日からできること」を熱く語り合い、トークマップにして多くのアイデアを提言しました。夢にあふれ勇気が出てくる発表会となり、互いにエンパワメントされ充実感に満たされました。

■いくつかのアイデア紹介：・当事者として発信する力を持つ　・関係性を変える　・当事者として意向を組織　・チームに反映する　・リカバリーを強める当事者の役割、スタッフの役割がある　・望みや希望を信じられる　・情報を得てピアスタッフの力をかりる　・当事者の持つ専門性を高める活動　・施策決定に参加し当たり前の市民の責任を引き受ける　・医療の場にリカバリーはある　・プライマリーナースの後押しで WRAP を始めた　他

■トークマップの例：





《相澤和美（地域精神看護ケアねっと／国際医療福祉大学）》